ケアする人のケアセミナー

人はなぜ助け合うのか

in 沖縄

沖縄には「ゆいまーる」と呼ばれるおたがいに助け合う文化や、独特の死生観がありました。そして支援サービスなど制度がなかった時代を力強く生き抜いてきた歴史がありました。

しかし過疎化や高齢化、核家族化、単独世帯の増加などで、これまでの地縁血縁にもとづいた共同体のつながりは分断され、生きにくさを生み出しています。なかでもケアにおいて支えられる人／支える人が社会的に孤立を深めています。

こうした状況のなかで、制度のみに頼るのではなく、地域のなかでおたがいに支え合う「地域包括ケアシステム」づくりが求められています。そこで注目したいのは、他者や自然との一体感や大きな生命観にもとづいた沖縄の伝統文化と精神です。それらは生きにくい社会から生きやすい社会へという今日的な課題を解決するための大きなヒントになるのではないでしょうか。

本セミナーではこの沖縄でつちかわれた文化や精神、先人の知恵を学び直し、愛情と人間的なぬくもりのある共同体をどう再生させるかについて考えてみたいと思います。

みなさんのご参加をお待ちしております。

ワークショップ

日　　時　2014年12月20日(土)　14:00〜16:00

会　　場　カルチャーリゾートフェストーネ　研修室BC/会議室B
（宜野湾市真志喜3-28-1）

セミナー

日　　時　2014年12月21日(日)　10:30〜16:30

会　　場　沖縄コンベンションセンター　会議室A-1
（宜野湾市真志喜4-3-1）

参加費無料
定員250名

主　　催　一般財団法人 住友生命福祉文化財団、一般財団法人たんぽぽの家

実施主体　ケアする人のケアセミナー沖縄実行委員会

後　　援　沖縄県、沖縄県社会福祉協議会、沖縄県医師会、沖縄タイムス社、琉球新報

会場アクセス

ワークショップ

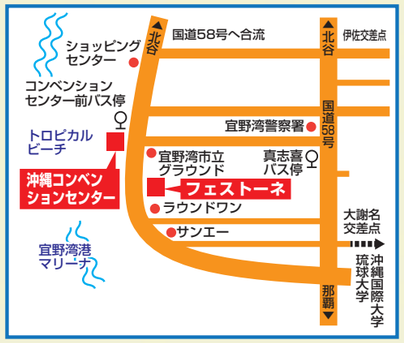
健康文化村 カルチャーリゾート フェストーネ

〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜 3-28-1
TEL：098-898-1212　FAX：098-898-1733
URL：http://festone.jp
＜車で＞
・那覇空港から：車（一般道）で約 40 分
（国道 58 号線を北上、牧港交差点を左折、宜野湾バイパスへ）
※タクシーをご利用の場合、那覇空港より約 14km
（所要時間：約 40 分）
・沖縄自動車道（西原 IC）から：車（一般道）で約 15 分
＜路線バス＞
・コンベンションセンター前バス停から徒歩約 5 分
（路線バスについては下記参照）

セミナー

沖縄コンベンションセンター

〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜 4-3-1
TEL：098-898-3000　FAX：098-898-2202
URL：http://www.oki-conven.jp/
＜車で＞
・空港から約 40 分　・那覇市内から約 30 分　・名護市内から約 90 分
＜路線バス＞
[那覇バスターミナル（モノレール旭橋駅前）から]
・沖縄コンベンションセンター前バス停まで　約 40 ～ 60 分（530 円）
・真志喜バス停まで約 40 ～ 45 分（530 円 / 徒歩約 11 分）
[空港から]
・那覇バスターミナル経由沖縄コンベンションセンター前バス停まで
約 50 ～ 70 分（570 円）
・「空港リムジンバス」でラグナガーデンホテルまで約 55 分
（600 円 / ラグナガーデンホテルから沖縄コンベンションセンターまで徒歩約 10 分）



参加申し込み方法

下記の申込内容を、FAX、郵送、E メールでお知らせください。
お申し込み先

認定 NPO 法人リカバリーサポート・ネットワーク

TEL/FAX　098-871-9671
〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町上原 103 ルボア YARA 2F
E メールでのお申し込みはこちら⇒carecare-seminar@popo.or.jp

ケアする人のケアセミナー　参加申し込みフォーム

FAX 098-871-9671

※必要事項をご記入のうえ、該当する項目にチェックをいれてください。
※ご記入いただいた個人情報は、本セミナーの受付事務においてのみ利用させていただきます。

ふりがな お名前		ご所属（よろしければ、活動先・活動内容などをお書きください。特になければ記入不要です）	
ご住所（□ご自宅／□勤務先等） 〒			
TEL（□ご自宅／□勤務先等）		FAX（□ご自宅／□勤務先等）	
Eメール（□ご自宅／□勤務先等）			
参加日	□両日参加　□ワークショップのみ（12/20）　□セミナーのみ（12/21）		
12/20（土）ワークショップ選択（希望制）※先着順です	第 1 希望	□ワークショップ 1　□ワークショップ 2　□ワークショップ 3	
	第 2 希望	□ワークショップ 1　□ワークショップ 2　□ワークショップ 3	

セミナーに関するお問い合わせ先　**一般財団法人たんぽぽの家**（担当：佐賀）
〒630-8044 奈良県奈良市六条西 3-25-4　TEL 0742-43-7055　FAX 0742-49-5501　E-mail carecare@popo.or.jp

ケアする人のケアセミナー in 沖縄
プログラム

※諸事情により、プログラムの一部を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

12月20日㈯　ワークショップ　14:00〜16:00
会場　カルチャーリゾートフェストーネ

ケアなど人との関わりにおいて必要とされるコミュニケーション能力。アートや方言など多様な表現方法がそれを高め、豊かにします。気づきやリフレッシュにもなる学びのワークショップです。

ワークショップ１（会場：研修室 B）　定員 25 名
表現を楽しむ

障害のある人や認知症の方も実践できる描画アートのワークショップです。作業療法を取り入れたケアの現場の事例や表現技法を学び、アートを通じてのコミュニケーションを体験します。
※作業のしやすい服装でお越しください。

金城 光政（もとぶ記念病院診療部作業療法科 作業療法士）
照屋 盛之（沖縄リハビリテーション福祉学院作業療法学科講師）

ワークショップ２（会場：研修室 C）　定員 30 名
方言とケア

方言は身体言語といわれています。しかし、その方言は時代とともに姿を消しつつあります。しまくとぅば（沖縄方言）の表現の豊かさ、奥深さを楽しみながら、あたたかさのある関係づくりについて考えます。

野村 朝常（特定非営利活動法人沖縄語普及協議会）
ファシリテータ：西村 直之（認定 NPO 法人リカバリーサポート・ネットワーク代表）

ワークショップ３　（会場：会議室 B）　定員 30 名
写真の力

人や共同体を癒し、心を育む「写真」。「写真の町」北海道東川町の事例をもとに、写真の可能性と、人と人のつながりの回復について考えます。

勇崎 哲史（写真家）

※先着順です。定員になり次第、締め切らせていただきます。ワークショップ参加ご希望の方には、後日郵送もしくはメールにて、通知をお送りいたします。

12月21日㈰　セミナー　10:30〜16:30
会場　沖縄コンベンションセンター

沖縄の歴史や文化のなかには、ケアや支え合いの地域づくりのヒントがたくさんあります。さまざまな事例から学び、これからの時代のケアと共同体のあり方について考えます。

10:00〜10:30　受付

10:30〜10:35　開会あいさつ

10:35〜10:55　キーノートスピーチ「ケアとは何か」

人は「悲しみの器」といわれています。その悲しみと向き合い、痛みをかかえる人を世話することで、新しい生命のつながりに気づき、感動も生まれます。それはまた痛みをともなうことでもあり、時には無力感におちいることもあります。しかし、そこから人間的に成長する人がたくさんいるのも事実です。悲しみに向き合うことで生まれてくる可能性について考えます。

播磨 靖夫（一般財団法人たんぽぽの家理事長）
障害のある人たちの生きる場「たんぽぽの家」づくりを市民運動として展開し、アートと社会の新しい関係をつくる「エイブル・アート・ムーブメント」を提唱。「アートとケア」「ケアする人のケア」の研究を通して、ケアの文化の創造に取り組む。平成 21 年度芸術選奨文部科学大臣賞（芸術振興部門）受賞。

11:00〜12:30　パネルディスカッション1「沖縄の看取りの変遷と行く末」

病院や施設で亡くなる人が多い現代社会において、「死」は日常生活から切り離され、不安や恐れのイメージに覆われています。過疎化、高齢化、核家族化が進み、沖縄独特の死生観や葬儀の風習が消えつつあるなか、島の人々の生と死を見つめ、文化を伝えてきた人たちがいました。人と共同体を癒し、再生させる看取りのこれからのあり方を考えます。

＜話し手＞
野田 伸一（国際島嶼教育研究センター元教授）
綾部 真雄（首都大学東京社会人類学研究室教授）
玉城 浩江（八重山福祉保健所主任保健師）
＜進行＞
西村 直之（認定 NPO 法人リカバリーサポート・ネットワーク代表）

12:30〜13:30　休憩・昼食

13:30〜13:50　音楽パフォーマンス

まちを元気にする音楽パフォーマンス。アートやエンターテイメントの持つ力は、ケアの可能性を広げます。

＜パフォーマー＞
特定非営利活動法人まちづくり NPO コザまち社中

13:55〜15:25　パネルディスカッション2「助け合う共同体の再生」

共同体は、生きることを支え、生きる意味を与え、生きる価値をつくるところでした。しかし、現代はその共同体がくずれ、人びとは孤立化しています。人と人、人と自然、人と社会、人と大いなる存在の分断を乗り越えて、どのように現代につながりを再生すればいいのか、身近なところから考えてみたいと思います。

＜話し手＞
堂園 晴彦（堂園メディカルハウス院長）
犬塚 拓一郎（コザ市民大学）
安村 勤（ＮＰＯ法人　地域活動支援センターウェーブ所長）
長嶺 房子（日本網膜色素変性症協会沖縄県支部支部長）
＜進行＞
播磨 靖夫（一般財団法人たんぽぽの家理事長）

15:30〜16:30　意見交換会（フリートーク）

質疑応答など、講師を交えて自由に語り合う時間です。是非ご参加ください。